

夏休み防災未来学校2026 資料室イベントのお知らせ

01 夏休み防災図書コーナー

阪神・淡路大震災、東日本大震災などに関する物語やエッセイといった児童書の貸出&読書感想文作成ブースを開放予定! 夏休みの読書感想文や自由研究は、人と防災未来センターで「防災」についてチャレンジしましょう!

開設期間

2026年7月14日(火)~9月5日(土)
資料室開室時間: 9時30分~17時30分

図書貸出

対象: 幼児~中学生
冊数: 1人1回2冊まで(4週間)
※初回利用時は生徒手帳や連絡先がわかるものをご持参ください。



02 なりきり! 震災資料専門員 ~大切な資料を後世に~

阪神・淡路大震災から31年。時間の経過とともに、震災の記憶をいかに受け継いでいくかが大きな課題となっています。震災資料専門員は、震災の記憶に関わる実際の資料を保存し、その教訓の発信に取り組む仕事です。

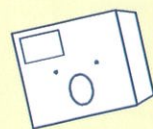
みなさんも一日限りの特別専門員になって、資料の保存と活用的重要性について一緒に考えてみませんか!



2025年開催の様子

イベントの詳細や予約方法は夏休み防災未来学校のHPからご確認ください。

URL: <https://hitobou.com/event/summer/2026/>



震災資料をお持ちの方に

人と防災未来センターでは、現在も震災資料の収集を続けています。「こんなものでいいのかな?」と、おっしゃる方もなかにはいらっしゃいます。寄贈できるか分からないとお考えの方や、震災後、すぐには手放せなかったものの、**震災の出来事を伝えるために活用したい**とお考えの方など、悩んだ際には、**ぜひ一度、資料室までご相談ください。**

(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構
DRI 阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター資料室

〒651-0073 兵庫県神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2 人と防災未来センター西館5階
TEL 078-262-5058 FAX 078-262-5062

URL <https://www.dri.ne.jp/>

開室時間 9:30~17:30 (展示施設とは時間が異なりますので、ご注意ください)

閉室日 毎週月曜日(月曜日が祝日又は振替休日の場合は翌平日)

12月29日から1月3日



資料室は無料で
ご利用いただけます



阪神・淡路大震災記念
人と防災未来センター
The Great Hanshin-Awaji Earthquake Memorial
Disaster Reduction and Human Renovation Institute



資料室ニュース

企画展
神戸ポアイ45年
「夢・震災・未来」
今こそ学ぶ人工島

2026 6.16-10.25

阪神・淡路大震災記念
人と防災未来センター

西館 2F 防災未来ギャラリー (有料ゾーン)

ポートアイランド、通称「ポアイ」は、神戸市中央区の神戸港内の人工島です。1981年に街びらきしてから今年で45年が経ちます。ここでは教育・医療機関の誘致や神戸空港の国際化、大阪湾岸道路の延伸、さらにポートアイランド・リボーンプロジェクトなど、未来に向けた大きな変革が進んでいます。しかし、この島の発展の背景には、阪神・淡路大震災という大きな試練がありました。

本展示では、震災がポートアイランドの人々の暮らしに与えた影響を振り返るとともに、その経験から生まれた地域の防災・減災の取り組みや備えをご紹介します。きたるべき南海トラフ地震や首都直下地震に向けて私達がすべきことは何なのか、ポートアイランドでの取り組みから一緒に学びましょう。



ポートアイランドの土砂
1500658-000004



地震と液状化で割れた港
0000578-001001-001.0020



ポートアイランドの休日
2300775-000006-002.0001

情報検索システム リニューアル

2026年4月1日より、情報検索システムをリニューアルしました。

これまで4種類（モノ・映像・文書資料、写真資料、図書・雑誌、河田文庫）に分かれていた検索画面を、「**震災資料（モノ・映像・文書資料、写真資料の一次資料）**」検索 と 「**図書・雑誌（河田文庫を含む二次資料）**」検索 の2種類に集約しました。

今後も、震災資料の閲覧申請や蔵書の調査に、より便利になった検索システムをご活用ください。

震災資料検索

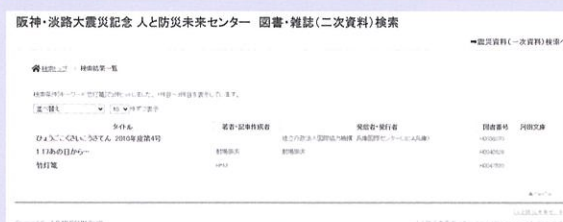
検索結果一覧イメージ



詳細情報イメージ



図書・雑誌検索



新着資料紹介

主に神戸市東部地域の写真が写るアルバム3冊と写真57枚が寄贈されました。

震災当時、寄贈者は北海道の大学で建築学の研究をされていたため、建物の被害に関心がありました。神戸に帰省する度に様々な建造物を撮影しています。震災前の状態のイラストがあることで被害の大きさが伝わります。また、アルバムの写真にはそれぞれ撮影場所のメモが添えられていて、30年以上が経過しても場所の特定が可能です。



阪神電鉄大石 - 新在家間の橋脚



JR灘駅

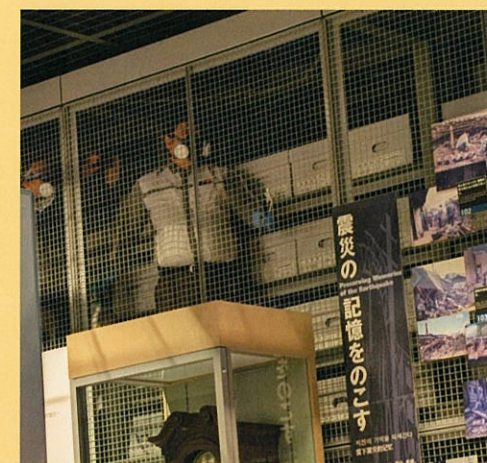
震災資料を保存する

阪神・淡路大震災から31年が経過しました。人と防災未来センターが所蔵する震災資料の多くも、同じだけ年数を重ねています。経年や虫害による劣化を防ぎ、震災資料をできる限り良い状態で後世に伝えていくため、資料室では収蔵庫の温湿度調整といった保存環境の管理だけでなく「震災資料保存環境調査」「殺虫剤散布処理」など様々な取り組みを行っています。

環境調査から燻蒸までの流れ

収蔵エリアの虫菌害・空中浮遊カビの有無について調査を実施し、現状を把握した上で今後の保存環境の改善を図るため、西館3階展示フロア、5階資料室フロア、7階収蔵庫にて歩行性昆虫調査及び空中浮遊カビ調査を毎年行っています。

こうした環境調査の結果に基づいて、一年に一回殺虫剤散布処理（燻蒸）を実施します。令和7年度の燻蒸は、観覧客の訪問によって害虫が侵入しやすい場所である西館3階展示室にて行いました。殺虫燻蒸処理により、一度に害虫を全滅に近い状態にできるので、その後しばらくの間害虫が発生する確率を低くすることができます。殺虫処理に使用するピレスロイド系殺虫剤は、昆虫類には高い殺傷・忌避効果がありますが、光や温度で分解されるため、人体や文化財の材質への影響は非常に低いとされています。



▲収蔵スペースに殺虫剤の散布を実施している様子。散布後、展示室は4時間密封状態を維持し、隙間に隠れた害虫を駆除します。

ひめじ防災プラザのご紹介

2026年2月26日、兵庫県姫路市の「ひめじ防災プラザ」を訪れ、同施設で行われている防災学習の取り組みについてお話を伺いましたので、その特徴をご紹介します。

ひめじ防災プラザは、「防災情報ゾーン」「災害体感ゾーン」「防災体験ゾーン」から構成される体験型の防災学習施設です。タッチパネルや防災グッズの展示、約20分の3D映像による災害メカニズムの学習、さらに防火服を着てミニ消防車で消火活動を体験できる装置など、子どもから大人まで楽しみながら学べる工夫が凝らされています。

規模は大きくありませんが、地域に合わせた資料を使った丁寧な防災教育が行われており、近年はSNSでの口コミにより来館者が増加しているそうです。

ひめじ防災プラザに関する詳しい情報はこちらから



防災情報ゾーン



防災体験ゾーン